

1 自立支援ヘルパー実務マニュアルの特徴

本マニュアルは、要支援者等が利用する訪問型サービス事業所にて活用していただくための「自立支援型サービスの実務マニュアル」です。

心身機能及び生活機能の向上を目的とし、利用者のADL・IADLが自立または見守りレベルになることを目指します。

- 高齢者の心身状態、体力、環境は個人差が大きく、生活に対する課題もさまざまです。
- 生活課題を明確にするためには、まずアセスメント（課題分析）が重要です。各項目に沿ったアセスメント方法及び様式を充実させています。
- 特に生活課題を見いだすための評価ツールとして、「**ADL・IADL課題整理シート**」を掲載しています。

自立を支援するためのサービス提供



めざすもの

- ADL・IADLの自立を支援し、生活目標の達成をめざす。
- 高齢者が介護保険卒業後、継続して自主的に活動できるよう支援する。

マニュアルは、以下で構成されています。

第2章 ADL・IADLの評価／自助具・家事用具の工夫

生活を良くするための支援では、その人の生活を知ることが大切です。

また何よりも、利用者本人が生活機能低下を意識することが、早期の対応、ADL・IADLの低下防止につながります。

その**生活課題を明確にとらえるための課題整理表や、自助具・家事用具の工夫**について掲載しています。

利用者と一緒にチェックするなど、課題を整理して、利用者の生活にあわせた自立支援につなげてください。

第3章 運動・栄養・口腔・認知・聞こえに関する知識と支援方法

各分野（運動、栄養、口腔、認知、聞こえ）に関する知識や支援方法について掲載しています。

課題を明確にし、生活目標を設定することから利用者の支援が始まります。

アセスメントについて十分理解を深めておくことが重要です。

また利用日だけでなく、日常生活の中で継続してトレーニングができること、食習慣・口腔ケアに対する行動変容がみられることが大切なことから、**セルフケアへの意識づけ**としても本マニュアルを活用ください。

第4章 マニュアルの活用例

本マニュアルを活用して、課題整理や支援の方向性をまとめた事例を掲載しています。

第5章 リスク管理

急変時の基本的なアセスメントや代表的な疾患別・症状別のアセスメント、また薬剤や転倒のリスクについて記載しています。

1

第1章 マニュアルの概要

2 マニュアルの活用方法

第1章 概要

本マニュアルは、高齢者の支援をするうえで必要な知識や支援方法、活用例やリスク管理について掲載しています。

市町村より様式・資料データを受け取りご活用ください。



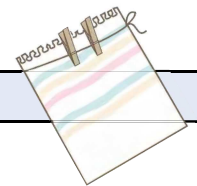
1 事前アセスメント

訪問介護計画立案前に事前アセスメントを実施します。

項目	*各種様式を利用してください。
ADL・IADL	生活機能評価表 (P8) ADL・IADL課題整理表 (P10~16)
栄養改善	栄養アセスメント (P43) 振り返りシート (P44)
口腔機能	簡易口腔アセスメント (P61) 誤嚥性肺炎リスクチェック表 (P60)

2 訪問介護計画の立案

生活課題を解決するには、明確な目標と本人の意識、個々に応じた支援が必要です。



3 支援の実施（セルフケアの実施・指導）

個別計画に沿って、利用者の生活課題に応じた支援を提供します。

ヘルパーが支援に入る時間は限られているため、ヘルパーが支援に入らない時のセルフケア方法についても助言をするよう心掛けましょう。

運動（めじろんビッグ4）、食前の口腔体操や毎食後の口腔清掃、食材チェックなどは、セルフケアメニューとして毎日の実施とチェック実施を促します。また、利用時にきちんとできているか確認をしましょう。

記録用紙

ADL・IADL	できた!! 活動チェック表 (P17)
栄養改善	簡単! 食事バランスチェックシート (またくちにやさしいわ) (P45)
口腔機能	健口記録 (P62)

4 サービス提供の流れ

